


いわて国際交流 世界はともだち



2026
04
Spring

 岩手山頂上からの眺め (詳しくはP.8で)
More details on page 8 / 详情页面P8

特集1

令和7年度
岩手県国際交流協会主要事業実施状況

特集2

いわて留学生大使座談会
—私が好きないわてのくらし



令和7年度 岩手県国際交流協会 主要事業実施状況

多文化

外国人との交流会 ちゃっとランド
令和7年度はキオクシアアイーナにおいて、6回開催しました。

岩手県国際交流協会では、大きく3つの柱として「1. 地域に根差した国際交流・理解の促進」、「2. 多文化共生の地域づくり」、「3. 次代を担う人づくり」を掲げ、事業を進めています。令和7年度に実施した事業の一部を紹介します。

2025 ワン・ワールド・フェスタ in いわて

2025年の開催で20回目となりました。11月16日に開催し、外国の文化紹介や外国人の皆さんとの交流を楽しむワールドエリアなど、延べ4,700人を超える方に楽しんでいただきました。

地域に根差した国際交流・理解の促進

地域国際化人材育成研修・地域国際化推進会議

地域における国際化や多文化共生推進、相互の連携強化を目的として、市町村と市町村国際交流協会を対象に、研修と会議を、県内4地域(県央、県北、県南、沿岸)で、開催しました。

いわて国際化人材

外国文化の紹介や希少言語の通訳翻訳、日常生活での多言語サポートなどの依頼に対し、登録者に案内を行いました。(登録者:322人(日本人・外国人))

国際交流関係団体等の活動支援助成

国際交流関係団体等が実施する活動、日本語教室運営、市町村国際交流協会の活動に対し、当協会より助成を行っています。令和7年度は、計8件が採択されました。



2025ワン・ワールド・フェスタinいわての様子

外国人患者受入体制構築事業

盛岡市内の病院において、外国人医療相談会を実施し、26人の外国人が受診しました。

医療サポート通訳研修

先駆的に実施している札幌の団体から講師を迎え、医療現場での通訳サポートについて研修を行いました。

共生の地域づくり

地域日本語教育推進事業

【オンライン日本語教室】

在住外国人が地域で暮らしていくために必要な基礎的な日本語を効果的・効率的に学ぶために、有資格者の日本語教師が指導をしました。

【地域へのアウトリーチ支援】

地域日本語教育コーディネーター等が現地に赴いて、地域のニーズに応じた研修会や交流会を実施したり、当事業において走り出しを支援した、紫波町や一関市などの日本語教室の継続支援を行いました。

日本語サポーター

外国人の日本語学習のサポートをしてくださる方に登録いただき、外国人学習者とマッチングをしました。

いわて外国人県民相談・支援センターの運営

日本語の他、英語、中国語、ベトナム語、韓国語の相談員を配置して相談に対応しました。

このほか、岩手県行政書士会、岩手弁護士会、仙台出入国在留管理局等と連携し、専門家による相談会も行いました。



盛岡国際交流協会との協働による外国人避難者対応訓練(2025.12.14)

災害時における外国人支援

大規模災害時に岩手県が設置する「災害時多言語支援窓口」の運営を行うために、岩手県総合防災訓練の実施市町村等と連携して、外国人避難者の対応や多言語支援窓口の訓練などを行いました。

また、災害時に外国人を支援してくださる「災害時外国人サポーター」として、60人を超える方に登録いただきました。

外国人労働者受入体制整備事業

市町村の国際交流協会や日本語教室と協働しながら、外国人労働者と地域住民との交流の機会を設けました。令和7年度は、二戸、釜石、遠野、紫波、大船渡、一関などで実施しました。

次代を担う人づくり

いわてグローバル人材育成推進協議会

当協会は、産学官が連携する「いわてグローバル人材育成推進協議会」の事務局として、グローバルな視点を持ち、地域の産業を活性化させたり、地域の課題を解決できる人材の育成に、取り組みました。令和7年度は、日本人学生6名の海外留学を支援しました。

また、外国人等のグローバル人材の岩手での就職・定着に向け、グローバルキャリアフェアの開催や県内企業訪問などを行いました。



派遣学生成果報告会(2025.6.11)

私が好きな いわての暮らし

留学生大使
座談会



岩手県国際交流協会では、県内で国際交流活動に積極的に参加してくれる留学生を1年間「いわて留学生大使」として任命し、奨学金を支給しています。1年間の活動を通して感じたこと、気が付いた岩手の魅力などについて共有してもらうため、2026年2月10日に座談会を開催しました。その時の様子をレポートします。

Iwate International Student Ambassador Roundtable : My Favorite Aspects of "Life in Iwate"

The Iwate International Association appoints international students actively participating in international exchange activities within the prefecture as "Iwate International Student Ambassadors" for one year and provides them with scholarships. On February 10, 2026, we held a roundtable discussion where they shared their experiences and insights gained throughout the year, including the charms of Iwate Prefecture they discovered. Here is a report on the event.

岩手留学生大使座談会 —我喜爱的“岩手生活”

岩手県国際交流協会每年都会将县内积极参与国际交流活动的外国留学生任命为为期一年的“岩手留学生大使”，并向他们提供奖学金。2026年2月10日，我们举办了一场座谈会，请大家分享在这一年活动中的感受，以及他们所感受到的岩手的魅力。下面为您介绍介绍当时的活动记录。

座談会参加者

List of participants 座談会参加者



ユー イエン
尤雁 (中国)
YOU YAN (China)



リン ジュンシン
林隼昕 (中国)
LIN JUNXIN (China)



シン キンバイ
沈欣蓓 (中国)
SHEN XINBEI (China)



イトウ
易铜 (中国)
YI TONG (China)



カ エキクン
何奕君 (中国)
HE YIJUN (China)



チョウ イクコン
张煜昆 (中国)
ZHANG YUNKUN (China)

—ここ一年間で、岩手だからできた経験があれば教えてください。

リン ジュンシン 私は、なんか本当に普通の日常生活みたいな感じですけど、クリスマスのときに友達と一緒にご飯に行き、行くときは雪が降ってなかったのに、お店から出たときはすぐ雪が降っていて、感動しました！普通の1日なんですけど、東北だから体験できたなって思います。

カ エキクン 去年、県内の高校で自国の文化を紹介するというのをやったんですけど、行った先(釜石)がとてもきれいでした。行く途中は、山々に囲まれて、道端で大きな鹿も見られて！真夏のことで、電車で行ったんですけど、とても静かで異世界みたいな感じでした。自然が本当に素晴らしいと思います。

—留学生大使として積極的に国際交流活動をしてくれた皆さまですが、やってよかったと思う瞬間はありましたか。

イトウ 私はワン・ワールド・フェスタinいわてへの参加ですね。今回は中国ブースの担当だったのですが、そこに立つだけで中国文化を代表してるんだという責任を感じました。

シン キンバイ 私はワン・ワールド・フェスタinいわてや花巻の国際フェアに参加し中国舞踊を披露しました。日本人だけではなく様々な国の方が見てくれました。

カ エキクン 盛岡市内の小学校で英語の授業のお手伝いをしたのですが、先生の教え方に感動しました。私が小学生だったら間違いなく英語が好きになる！っていうそんな素敵な教え方だったんです。先生に従うっていうより、教えられたことをちゃん

と活用するというような教育だったので、すごいなって。

—ところで皆さんが好きな岩手の食べ物ってありますか。

ユー イエン 焼肉はおいしい！

皆 冷麺、じゃじゃ麺、盛岡のパンも！

カ エキクン あと、長く行ってないんですけど、よ市はいいですね。いつもカルビとか牛タンとか、牛スジ煮込を出してくれるおじいちゃんがいるんですけど、はじめて食べたときはあまりにおいしくて、SNSで共有したいと思いました。

ユー イエン あとは地ビール！祭りもありますよね。毎年行きます(笑)

チョウ イクコン よ市とか、日本のお祭りの様子は中国と似ていて、屋台がいっぱい並んでいる光景がなじみ深いです。だから、毎回よ市に行くときは「ああ幸せだなあ」って思います(笑) 去年の最後のよ市のとき、酒かすが入った豚汁みたいな料理が配られてて、とてもおいしかった。初雪が降っていて感動しました。

今回、留学生大使の皆さんが岩手で何気ない日常を楽しみながら、国際交流活動や、さまざまな人とのかかわりを通して、岩手を好きになってくれたのだと実感しました。集まってくれた大使の中には、就職で岩手を離れる方もいますが、ここで築いた縁を大切に、さらなる活躍をしてほしいと思います。みなさん、1年間ありがとうございました！

—Please tell us of any experiences you've had over the past year that was made possible because you came to Iwate.

Lin Junxin My daily life is pretty ordinary, but during Christmas, I went out to eat with friends. When we left the restaurant, it was snowing heavily, even though it wasn't snowing when we went in! I was so moved. It was just an ordinary day, but I felt like I could only experience that because I was in Tohoku.

He Yijun Last year, I participated in an event at a high school in the prefecture where we introduced our own cultures. The place I visited (Kamaishi City) was absolutely beautiful. The path on the way there was surrounded by mountains. I even saw a large deer by the roadside! It was midsummer, and I took the train. It was incredibly quiet, like stepping into another world. I truly think the nature there is magnificent.

—As International Student Ambassadors, you've actively participated in various international exchange activities. Were there moments when you felt glad you did it?

Yi Tong I participated in the 2025 One World Festa in Iwate. This time I was in charge of the China booth, and just by standing there, I could feel the responsibility of representing my culture.

Shen Xinbei I participated in the 2025 One World Festa in Iwate and the Hanamaki International Fair, where I performed a Chinese dance. Not only Japanese people, but also people from various countries watched.

He Yijun I helped out with an English class at an elementary school in Morioka City, and I was really impressed by the teacher's approach. It was such a wonderful way of teaching that, if I were an elementary school student, I would definitely fall in

love with English! It wasn't about just following the teacher; it was more about learning how to effectively use what you were taught. I thought it was amazing.

—By the way, do you have any favorite foods from Iwate?

You Yan Yakimiku is delicious!!

All Student Ambassadors Reimen, Jajamen, and local breads too!

He Yijun Also, I haven't been in a while, but the Yochi Street Market is great. There's this older man who always serves kalbi, beef tongue, and braised beef tendon stew. The first time I tried it, it was so delicious that I wanted to share it on social media.

You Yan There's also great craft beer! And all the festivals, right? I go every year (laughs).

Zhang Yukun The Yoichi Street Market and Japanese festivals feel familiar because they resemble those in China, with rows upon rows of food stalls lining the streets. That's why every time I go to Yoichi, I think, "Ah, this is pure happiness" (laughs). At last year's final Yoichi, they served a dish like pork miso soup with sake lees in it, and it was incredibly delicious. The first snow of the year was falling, and it was truly moving.

This time, we truly felt that our International Student Ambassadors came to love Iwate through enjoying its everyday life, engaging in international exchange activities, and connecting with a wide array of people. While some ambassadors who gathered here will leave Iwate for employment, we hope they cherish the bonds formed here and continue to thrive in their future endeavors. Thank you all for this past year!

—在过去的一年中，请告诉我们只有在岩手才能获得的特别体验。

林隽昕 虽然只是很普通的日常生活，但有一次圣诞节和朋友一起去吃饭。去的时候还没有下雪，但从店里出来的时候却下起了大雪，我当时特别感动！虽然只是普通的一天，但我觉得这是只有在东北地区才能体验到的事情。

何奕君 去年我去县内的一所高中介绍自己国家的文化，去的地方（釜石）景色非常美。途中被群山环绕，在路边还看到了很大的鹿！那是盛夏的时候，我是坐电车去的，周围非常安静，有一种像来到了另外一个世界的感觉。我觉得大自然真的非常了不起。

—作为留学生大使积极参加国际交流活动时，有没有觉得“做这个活动真好”的瞬间呢？

易铜 对我来说是参加“World Festa in 岩手”。这次我负责中国展位，仅仅是站在那里就让我感到自己是在代表中国文化，也因此有一种责任感。

沈欣蓓 我也参加了“World Festa in 岩手”和花卷国际交流节，并表演了中国舞蹈。不仅日本人，还有来自不同国家的人观看了我的演出。

何奕君 我曾在盛冈市的一所小学帮忙上英语课，老师的教学方式让我非常感动。那种教学方法真的太棒了。我想如果我小时候遇到这样的老师，一定会喜欢上英语！那种不是单纯听从老师，

而是把学到的内容真正运用起来的教育方式，我觉得非常厉害。

—对了，大家有没有喜欢的岩手的美食呢？

尤雁 烤肉很好吃！

众 冷面、炸酱面，还有盛冈的面包！

何奕君 还有，还有，虽然我很久没去了，但“夜市”真的很不错。有一位老爷爷总是在那里卖烤牛肉、牛舌、炖牛筋之类的，我第一次吃的时候觉得太美味了，都想在社交媒体上分享一下。

尤雁 还有当地的精酿啤酒！而且还有节日活动，我每年都会去（笑）。

张煜昆 像“夜市”这样的日本节日活动和中国很像，摆满了小吃摊的光景让我感到很亲切。所以每次去“夜市”的时候，我都会想“啊，真幸福啊”（笑）。去年最后一次去“夜市”的时候，还有人分发一种像猪肉味噌汤一样的料理，里面加了酒糟，非常好吃。当时还下了初雪，让人很感动。

通过这次交流，可以感受到留学生大使们在岩手享受着平凡而温暖的日常生活，同时也通过国际交流活动以及与各种各样的人的相遇，逐渐喜欢上了岩手。在参加座谈会的大使中，有因为就业即将离开岩手的人，但希望大家珍惜在这里拥有的缘分，在未来的道路上继续取得更大的发展。感谢大家这一年的努力与付出！

聞いて！あたしの自慢



Listen Up! What I Am Proud Of
听！这是我最引以为豪的

県内在住外国人の方が、
皆様にぜひ聞いてほしいことを紹介します！

Introducing things the foreign residents
of Iwate want everyone to know!

介绍给大家居住在县内的外国人最想传达的事情！

ジュート — 私が誇れる黄金の繊維！

寄稿文 アシュラフ ファヒム(バングラデシュ)

バングラデシュで過ごした幼少期、ジュートは単なる作物ではありませんでした。文字通り、そして象徴的にも、私の人生の風景の一部でした。私は背の高い緑のジュートの茎に囲まれて育ちました。夏のそよ風にそっと揺れるその姿は、まるで私たちのアイデンティティを静かに空へと伝える旗の列のようでした。当時は、目の前の光景の意義を完全には理解していませんでした。私にとってそれは、村の生活の自然なリズムの一部でした。それらの記憶は単なるノスタルジーではなく、ジュートが私たちの生活、経済、環境にどれほど深く織り込まれているかを思い起こさせてくれます。

ジュートは綿に次ぐ世界で第二の重要な植物繊維として広く認知されており、バングラデシュではその品質に特に誇りを持っています。何世代にもわたり、バングラデシュは最高級のジュートを生産することで知られ、「黄金の繊維」という愛称で呼ばれるほどです。毎年、バングラデシュ全土の農民がこの驚くべき植物を栽培するために懸命に働き、世界第二位のジュート生産国としての地位に貢献しています。

私が最も感銘を受けるのは、ジュートが時代と共に変容してきた姿です。かつては主に麻袋、ロープ、粗い織物の原料として使われていましたが、今や現代産業において重要な役割を担っています。私はジュートが学校カバン、絵筆、マット、さらには装飾家具の製造に活用される様子を目の当たりにしてきました。今日、ジュートはバングラデシュの未来を切り開く革新を支えています。例えば生分解性プラスチック代替品「ソナリバッグ」を見ると、科学者たちの創造性に深い誇りを感じます。これはバングラデシュ人科学者ムバラク・アフマド・カーン博士が開発したもので、従来のプラスチック(ポリエチレン)袋に代わる持続可能な代替品となっています。

ジュートは私が想像もしなかった分野にも進出していま

す。ジュートインといったグリーン建材、自動車内装、エコファッション、グラフェン複合材、さらには3Dプリントまで。こうした進歩は、伝統的なものが持続可能な未来に向けていかに美しく再創造され得るかを見せてくれます。ニュースでジュートの新たな用途を知るたび、私は微笑みます。ジュートはバングラデシュの黄金の繊維であるだけでなく、私の国の黄金の一部だと断言できます。私にとってジュートは単なる植物ではなく、バングラデシュの回復力、革新性、そしてアイデンティティの象徴なのです。村の農場から国際展示会へ、ロープ製造からバイオプラスチックへ——ジュートは伝統を勝利へと変える国の物語を紡ぎ続けています。

Jute – A Golden Fiber: What I am Proud of!

Ashraf Fahim (Bangladesh)

During my childhood in Bangladesh, jute was never just a crop. It was part of the landscape of my life, both literally and symbolically. I grew up surrounded by the tall, green stalks of jute fields, which swayed gently in the summer breeze like rows of flags quietly waving our identity to the sky. At the time, I didn't fully realize the significance of what I was seeing. To me, it was simply part of the natural rhythm of village life. Those memories aren't just nostalgic; they remind me how deeply jute is woven into our lives, economy, and environment.

Jute is globally recognized as the second most important vegetable fiber after cotton, and in Bangladesh, we are especially proud of its quality. For genera

tions, our country has been known for producing the finest jute so much so that it earned the nickname “Golden Fiber”. Every year, farmers across Bangladesh work hard to cultivate this remarkable plant, contributing to our position as the second-largest jute producer in the world.

What inspires me most is how jute has transformed with time. Once mainly used to make gunny sacks, ropes, and coarse fabrics, it now plays a vital role in modern industries. I have seen how it is used in making school bags, paintbrushes, mats, and even decorative furniture. Today, jute is helping Bangladesh step into the future through innovations like the which is a biodegradable plastic alternative that makes me immensely proud of our scientists and their creativity. It is developed by a Bangladeshi scientist Dr. Mubarak Ahmad Khan which offers a sustainable substitute for conventional plastic (polythene) bags.

Jute has also entered fields I never imagined: green construction materials like Jutin, car interiors, eco-fashion, graphene composites, and even 3D printing. These advancements show how something traditional can be beautifully reimaged for a sustainable future. Every time I see a new use of jute in the news, I smile. I can truly say that jute is not only Bangladesh’s golden fiber; it is also a golden part of our nation. Jute is more than a plant to me. It is a symbol of resilience, innovation, and identity for Bangladesh. From village farms to international exhibitions, from rope-making to bioplastics, jute carries the story of a nation that can turn tradition into triumph.

黄麻——一种金色的纤维：我为此感到自豪！

Ashraf Fahim (孟加拉国)

在我童年时期的孟加拉国，黄麻从来不只是普通的农作物。它既是生活中真实可见的风景，也承载着某种象征意义。我成长在高高的黄麻田间，翠绿的茎秆在夏日微风中轻轻摇曳，仿佛我们自身的民族精神像一排排旗帜静静地向天空默默地诉说。那时的我并未真正理解其中的深意，只觉得那是乡村生活自然节奏的一部分。如今再回想，这些记忆不仅令人怀念，更让我意识到，黄麻早已深深融入我们的生活，与我们的经济和环境紧密相连。

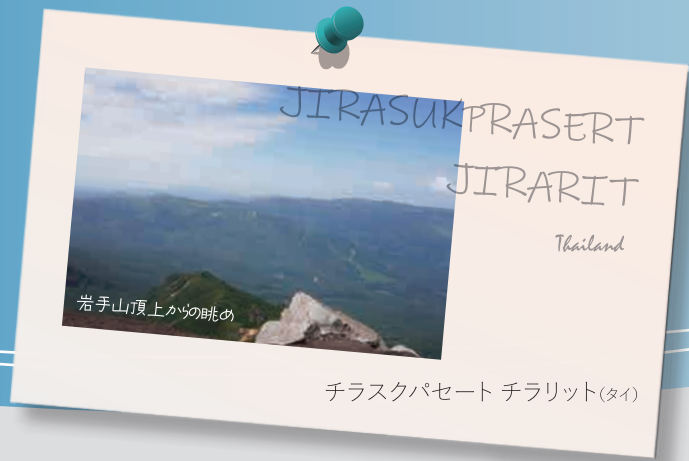
黄麻被公认为仅次于棉花的全球第二大重要的植物纤维，而孟加拉国对其品质尤为自豪。数代以来，我国以生产最优质的黄麻而闻名于世，甚至赢得了“黄金纤维”的美誉。每年，遍布孟加拉国的农民们辛勤耕种这种非凡的植物，助力于我国稳居全球第二大黄麻生产国之位。

最让我感动的是黄麻随时代而蜕变。它曾主要用于制作麻袋、绳索和粗布，如今却在现代工业中扮演着重要角色。我亲眼见证它被制成书包、画笔、地垫，甚至装饰性家具。如今，黄麻正助力于孟加拉国迈向未来——比如“索纳利袋”这样的创新产品，这种可生物降解的塑料替代品让我为本国科学家的创造力感到无比自豪。该产品由孟加拉国科学家穆巴拉克·艾哈迈德·汗博士研发，为传统塑料(聚乙烯)袋提供了可持续的替代方案。

黄麻的应用领域已经扩展到我从未想象过的范围：绿色建材如Jutin、汽车内饰、环保时尚、石墨烯复合材料，甚至3D打印。这些突破彰显了传统材料如何被重新构想，为可持续的未来谱写华章。每当新闻中出现黄麻的新用途，我总会会心一笑。我由衷地认为，黄麻不仅是孟加拉国的“黄金纤维”，更是我们民族的“黄金组成部分”。对我而言，黄麻远不止是一种植物——它是孟加拉国坚韧精神、创新力量与民族身份的象征。从乡村农场到国际展会，从绳索编织到生物塑料，黄麻承载着一个将传统转化为辉煌成就的国度故事。



わたしのおもいで



チラスクパセート チラリット(タイ)

盛岡での生活は予想外の困難もありましたが、忘れられない瞬間をいくつももたらしてくれました。最も記憶に残っているのは、岩手県で一番高い山、岩手山へ登ったことです。友人に登山を誘われて、緊張はありましたが、自然が大好きな私は挑戦を決意したのです。

この挑戦は準備から始まりました。身体を鍛え、適切な服を選び、必要最低限の食料と水を詰めます。多すぎれば重荷になりますが、少なすぎれば不足してしまいます。

集合は朝の5時半でした。早朝でしたが、標高約2,038メートルの岩手山を往復するには約8時間かかるため当然のことでした。登り始めると、道の状態は常に変化し、崩れやすい土や滑りやすい岩が続きました。肌を刺すほど空気が冷たかったですが、汗で服はびしょり。足がだんだん弱ってきましたが、私は進み続けました。「何をしているんだろう?」と何度も自問自答しました。

そして、ついに、頂上に到達しました。果てしなく続く山々と空の眺めは息をのむほどでした。辛かった一步一步が、全て報われたようでした。

その夜、私の足をおそった筋肉痛と痙攣に苦しみながら、もう二度と登らないぞと誓いました。しかし、2年経った今、私はあれから5回以上登頂しました。あのたった一つの挑戦が、ずっと私の中で生き続ける情熱と記憶となったのです。

Living in Morioka brought unexpected challenges and unforgettable moments. One of the most memorable was climbing Mount Iwate, the highest mountain in Iwate Prefecture. A friend invited me to join, and though I was nervous, my love for nature convinced me to try.

The challenge began with preparation; training my body, choosing the right clothes, and packing just enough food and water. Too much would weigh me down; too little wouldn't be enough.

We met at 5:30 AM. It was early, but necessary since Mount Iwate stands around 2,038 meters high, and

the round trip would take roughly 8 hours. As we began the climb, the trail constantly changed, with loose soil and slippery rocks. The cold air stung my skin, but sweat soaked my clothes. My legs grew weaker, but I kept pushing. "What am I doing here?" I kept asking myself.

Then, finally, we reached the summit. The view was stunning with endless mountains and sky. Every painful step had been worth it.

That night, with sore muscles and twitching legs, I swore I'd never do it again. But here I am, two years later, with more than five climbs behind me. That single challenge became a passion and a memory I'll always carry.

盛冈的生活给我带来了许多意想不到的挑战，也留下了一些难忘的回忆。其中最令我难忘的经历，便是攀登岩手县的最高峰——岩手山。朋友邀请我同行，虽然心中忐忑不安，但对大自然的热爱最终让我鼓起勇气一试。

准备工作就已经充满挑战：体能训练、挑选合适的装备、精简食物和水源。准备过多，会成为负担；准备不足，又难以支撑整个行程。

清晨五点半，我们准时集合。虽然天色未亮，但一切都势在必行——岩手山海拔约2038米，往返大约需要八个小时。登山路径千变万化，松软的泥土与湿滑的岩石交错在一起。寒风刺骨，汗水浸透衣衫，双腿越来越沉重，我却咬牙坚持。“我究竟在做什么？”这个念头不断在脑海里回响。

终于，我们登上了山顶。眼前呈现出的连绵起伏的山峦和无边的苍穹，感觉每一步的艰辛都有了回报。

当晚，肌肉酸痛、双腿抽搐的我发誓再也不登山了。然而，两年后的今天，我已完成了五次以上的登顶。那次挑战，化作永恒的热情与记忆，将伴随我继续前行。